

知識探訪

多民族社会の横顔を読む

協力：日本マレーシア学会 (JAMS)

近年のマレーシアの教育改革動向

杉村美紀 (上智大学総合人間科学部教育学科教授)

マレーシアでは、近年の教育改革において、グローバル化とナショナリズムのせめぎ合いがこれまで以上に顕著になっている。独立から 60 年余りを経る中で、国民統合と経済発展のための人材育成を担ってきた教育では、マレー化を軸とする国民教育政策が、マレー系優先政策とともに堅持されてきた。しかしながら、高等教育においては 1990 年代半ば以降、多様化・民営化が進められ、英語プログラムや国境を越えて展開されるクロス・ボーダープログラムの積極的な導入が進み、留学生の招致および外国人労働者誘致策とともにグローバル化が進められてきた。こうしたグローバル化の動きは、初等・中等教育にも波及すると考えられがちであるが、実際には初等・中等教育においてはマレー系優先政策のもと、これまで一貫して重視されてきた国語(マレーシア語)としてのマレー語と国の宗教であるイスラームを軸とした国民教育が徹底されている。就学前教育から中等後教育までを対象とした中長期計画「マレーシアの教育・ブループリント 2013-2025」においても、「グローバルに活躍できる人材」を育てる上で必要とされているものに、「知識」、「思考力」、「リーダーシップ」、「多言語能力」、「倫理」と並んで「ナショナル・アイデンティティ」が掲げられているのはその表れである。また、グローバル化の動きとして、2003 年から実施されたすべての小中学校の数学および理科の教授用語を英語とするという施策に対しては、父兄や産業界からは支持されながらも、国語政策を重視するマレー系の保守派層から強い反対意見が示され、結局、教授用語は 12 年にはマレー語に戻された。

こうした「グローバル化からの揺れ戻し」のような動きは、18 年 5 月の野党連合によるマハティール政権の登場により複雑化している。華人コミュニティを支持基盤とする華文学校理事連合会総会および教師連合会総会は、政府補助を受ける公立の「華語国民型小学校」の他、私立の「華文独立中学」および私立華語高等機関「新紀元大学学院」(1997 年開学、2017 年 University College に昇格)を運営してきた。これらの華文学校では華語の他、国語、英語を共に重視する三言語主義をとっている。そのうち「華文独立中学」は、かつて 1961 年教育法の施行時に、当時既にあった中華学校が、政府補助を受けない私立学校として改組成立したものである。現在では全国に 61 校あるものの、同校が政府実施の卒業資格試験とは別に行っている卒業資格試験(独中統一試験)については、制度や試験言語の違いを理由に公的に認可されていない。総選

挙を機に、この独中統一試験を認可するかどうかを選挙の争点ともなったことで、「華文独立中学」の存在は今日、これまで以上に注目されている。華文独立中学関係者は、独中統一試験は、卒業生が海外の教育機関に進学する折、修了資格として認められている資格試験であると述べ、18 年 8 月には、15 年から議論されてきた「華文独立中学・ブループリント」を発表して、改めて政府に卒業資格の認可を要請した。さらに 18 年 11 月に開催された「全国華文独立中学校長フォーラム」でもこの方向性を再確認している。

興味深いのは、こうした一連の議論のなかで、グローバル化時代における華文独立中学の役割を論議するとともに、かつて「華文独立中学」の方針や独中統一試験のあり方を定めた「華文独立中学建議書」(1972 年)の趣旨を重視し、三言語教育は引き続き実施していくものの、「華文独立中学」をインターナショナルスクールとするつもりはないということ華文学校理事連合会総会および教師連合会総会が明言している点である。グローバル化を追求するのであれば、華語教育を堅持しつつも、英語による国際教育の展開を図る方がより運営しやすい訳であるが、あえて民族教育を軸とした華文学校としての特徴を維持しようとしている。この姿勢は、冒頭で述べた国民教育の枠組みを堅持する動きとはまた別の側面から、「グローバル化からの揺れ戻し」を意識した動きであるということが出来る。ここには、近年のマレーシアの教育改革が、グローバル化時代にありながら、すでにポスト・グローバル化の動きを孕んでいることを予見させる。

< 筆者紹介 >

上智大学総合人間科学部教育学科教授。グローバル化推進担当副学長。専門は比較教育学、国際教育学。近著に「高等教育の『国際化』をめぐる新展開と日本の役割」(『留学交流』85 号、2018 年、1~8 頁)、「学生移動を支える国境を越える高等教育とユネスコの対応」(『国連研究』19 号、2018 年、101~121 頁)、「グローバル化時代における国民国家と教育制度の変容 マレーシアの初等中等教育の理数科目における教授言語問題」『上智大学教育學論集』52 号、2018 年、65~76 頁)、『移動する人々と国民国家』(明石書店、2017 年、編著)など。